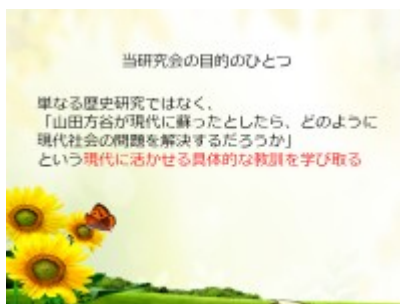


第1章 山田方谷から何を学ぶべきか

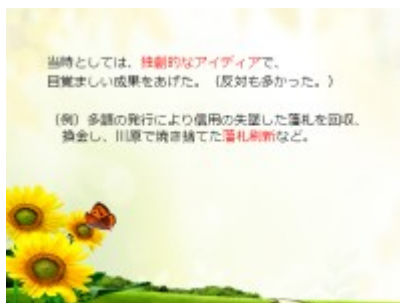


ご紹介いただきました尾崎と申します。内容が多いので、少し急ぎ気味でお話させていただきたいと思いますので、申し訳ありませんが、脳みそフル回転でお付き合いいただければと思います。ちなみに、今回の私の講演に使ったパワーポイントのデータなどが必要な方は、当研究会のホームページからダウンロードできるようにしていますので、メモを取るより、話の内容に集中していただければと思います。

あと、パンフレット掲載のタイトルと前に出ているタイトルが若干違うことをご了承ください。

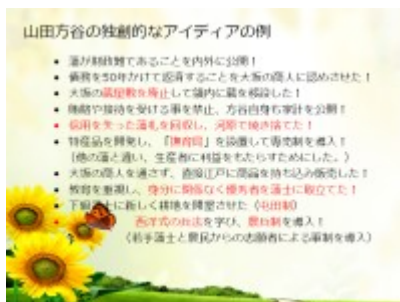


当研究会の目的の中に、単なる歴史研究ではなく、「山田方谷が現代に蘇ったとしたら、どのように現代社会の問題を解決するだろうか」という現代に活かせる具体的な教訓を学び取ろうというものがあります。



皆さんよくご存知のように、方谷さんは当時としては、独創的なアイディアで、目覚ましい成果をあげました。もちろん、その斬新さのために反対も多くありました。

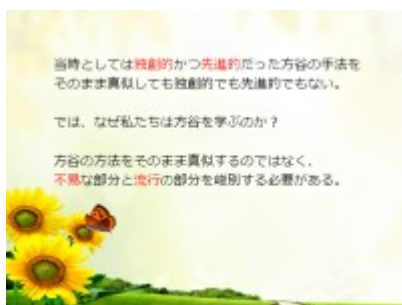
一例を挙げますと、多額の発行により信用の失墜した藩札を回収、換金し、川原で焼き捨て、藩札刷新をしました。



ここに、山田方谷の独創的なアイディアの例を挙げておきました。説明は省略しますが、どれも素晴らしい業績です。

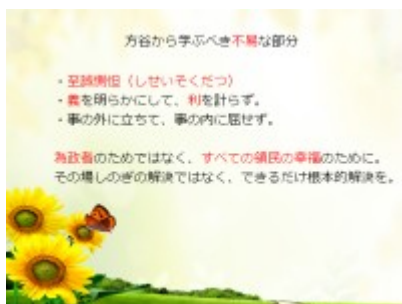


方谷さんの生きた時代と現代とでは時代が違うので、より広範囲に課題を解決しなければなりません。つまり、当時は備中松山藩の財政を再建すればよかったのですが、現代では岡山県の財政だけを再建しても解決にはなりません。少なくとも国家レベルで、可能なら世界レベルで解決する必要があります。



つまり、私たちも単純に方谷さんの業績をそのまま真似をしてもダメだということです。この時代に合った独創的なアイデアが必要だということになります。方谷さんも独創的でしたからね。■

では、真似してもダメなのに、どうして方谷さんのことを学ぶ必要があるのかというと、変わらない部分と時代や地域によって変わる部分を峻別して、不易な部分（変わらない部分）を学び、移り変わる部分から何らかのエッセンス的なものを抽出することが必要だと考えられます。



方谷さんから学ぶべき不易な部分は以下のようなことになります。「至誠惻怛」「義を明らかにして、利を計らず」「事の外に立ちて、事の内に屈せず」「為政者のためではなく、すべての領民の幸福のために」「その場しのぎでなく根本的な解決を」



そういったことを考慮して、できるだけ先入観や常識にとらわれず、最後までお聞きいただいた上で、自分の頭でご判断いただければと思います。



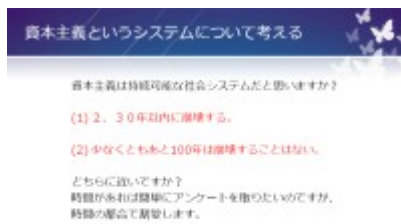
現代に生きる「私たちが解決すべき課題とその原因」ということで、以下のようなものがあげられるかと思います。

環境問題、エネルギー問題、貧困問題、食料問題、人口問題、紛争や戦争、財政問題など。

これらの問題の背後には「お金（経済）」の問題が潜んでいると言えます。

第2章 資本主義について考える

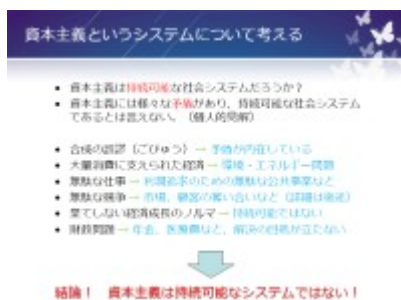
1. 資本主義は持続可能な経済システムではない



資本主義は持続可能な社会システムだと思いますか？

- ・ 2、30年以内に崩壊する。
- ・ 少なくともあと100年は崩壊することはない。

時間の都合でアンケートは取りませんが、各自、どちらに近いと考えていただければと思います。



ここに、私が資本主義が持続可能な経済システムではないと考える理由を挙げてみます。

・ 合成の誤謬

家庭においては節約することが望ましいにもかかわらず、社会全体、すべての家庭がそうすると景気が冷え込んで しまうという矛盾を内包しています。

・ 大量消費に支えられた経済

「節約すると景気が冷え込む」「GDP の成長のためには大量消費をしなければならない」というしくみは健全なのでしょうか？

・ 無駄な仕事

無駄な公共事業をしてでもお金を循環させないといけないというのも健全でない気がします。

・ 無駄な競争

市場や顧客の奪い合いなどをしなければなりません。これについては後で少し触れます。

・ 終わりのない経済成長のノルマ

経済学に詳しい私の知り合いに、「何年後になったら、私たちは経済成長のノルマから解放されるの？」と尋ねると、答えに困っていました。それは即ち、「持続可能な経済のしくみではない」ということではないでしょうか。

・ 財政問題

年金問題、増え続ける医療費の問題など、解決の目処が全く立っていません。

対症療法か、根源療法か？

資本主義が、共産主義と同様に、持続可能なものでないなら、政治家や知識人が議論していることは、沈みゆく運命の船の延命措置のようなものではない。つまり、対症療法ではなく、根源療法ではない。

人類は、お金という紙切れや通帳上の単なる数字によって滅亡の危機に瀕していると言えるかもしれない。

私たちが暮らせるべき、新しい船の設計が求められている！



もしも、資本主義が共産主義と同様に、持続可能なものでないなら、政治家や知識人が議論していることは、沈みゆく運命の船の延命措置に関して議論しているに過ぎないと言えるのではないのでしょうか。

つまり、対症療法でしかなく、根源療法ではないということです。

人類は、お金という紙切れや通帳上の単なる数字によって滅亡の危機に瀕していると言えるかもしれません。よく考えて見ればおかしいことです。

エネルギーの枯渇でも、隕石の衝突でもなく、お金という単なる数字や紙切れで、日常生活が便利になる反面、さまざまな問題をそのお金が引き起こしているとも言えると思います。今、私たちに求められているのは、場当たり的な政策ではなく、持続可能な新しい船の設計が求められているのかもしれない。

問題解決のヒントはどこにあるのか？

江戸時代と比べて家事労働は大幅に減り、短時間で終わるようになった。それにより、私たちの家庭生活は劇的に楽に、豊かになった。

その理由は、インフラ整備や便利な家電製品のおかげである。

しかし、社会での仕事はむしろ忙しく、苛酷になっている。

その違いはどこにあるのだろうか？ 私たちの社会の仕事も、家事労働のように、劇的に楽に、豊かになる可能性はあるだろうか？



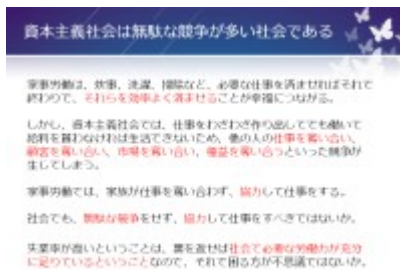
ちょっとこういったことを考えてみてください。江戸時代に比べて家事労働は大幅に減り、短時間で終わるようになりました。それはなぜでしょうか？

その理由は、インフラ整備や便利な家電製品のおかげです。蛇口をひねれば水が出ますし、ご飯を炊くのも、洗濯をするのもあつと言う間です。最近では、掃除もロボットがしてくれたりして、どんどん家事が楽になってきています。そうしたインフラ整備や家電製品の登場によって、私たちの家庭生活は劇的に楽に、豊かになりました。

ならば、私たちの社会での仕事、多くの人にとって会社での仕事ということになりますが、それもインターネットを含むインフラ整備、オートメーション化、機械化、合理化によって、昔より飛躍的に楽に、豊かになっていなければおかしいはずですよ。しかし、残念ながら、社会での仕事はむしろ忙しく、苛酷になっています。

その違いはどこにあるのでしょうか？ 私たちの社会の仕事も、家事労働のように、劇的に楽に、豊かになる可能性はあるのでしょうか？

2. 資本主義は非効率で無駄な競争が多いシステムである



資本主義社会は**非効率で無駄な競争が多い社会**だと思います。

家事労働は、炊事、洗濯、掃除など、家庭での生活に必要な仕事をすべて済ませればそれで 終わりです。ですので、それらを効率よく済ませることが幸福やゆとりにつながります。

しかし、資本主義社会ではそうはいきません。仕事がなかったとしたら、

仕事をわざわざ作り出してでも働いて、**給料**を貰わなければ生活で

きません。そのため、他の人から**仕事を奪い**、**顧客を奪い**、**利権を奪い**、**市場を奪い合う**といった競争が生じてしまいます。分かりますか？

非効率な競争の例（1）



非効率な競争の例を挙げます。**日本全体の視点**で考えてください。

家や会社にいると、郵便局、宅配便、〇〇運輸といったさまざまな流通業者が荷物を運んで来ます。もし、それらの業者が1社になったと想像してみてください。

日本全体で見れば、その方が**圧倒的に効率的**です。伝わっていますか？

日本中の家庭や企業に荷物を配達するということを、**何社もの運**

送業者が、**それぞれ**日本中を駆けまわって配達するより、1社がまとめて配達する方がはるかに効率的だと言えますね。仮にそうなれば、日本全体で大幅なガソリン代の節約になり、環境負荷が減り、道路の渋滞が緩和され、配達員、事務員の労働時間が大幅に削減できます。

競争しないと適切な価格にならないという反論が頭に浮かぶでしょうが、少しそれを脇に置いておいて、**思考実験**を続けていきましょう。1社になっても、**荷主が現在と同じ送料を支払う**なら、計算上、配達員や事務員の**給料を一切減らすことなく**、**労働時間を短縮**することができるということになります。分かりますか？ 配達員や事務員の給料を1円も減らさずに、労働時間だけが大幅に短縮するということです。企業の数が減るので、配達業務に関係のない管理職の人数は減らしてもいいでしょうし、**広告宣伝費**も抑えられるでしょう。その分、送料を抑えることができます。それは**荷主**にとってもメリットが大きいです。もちろん、対応の回数が減ることもメリットになります。

こうしてみると、理屈の上では、流通業者が顧客を奪い合うという無駄な競争をやめ、**協力して**荷物を届けるようにすると、社会全体に大きなメリットが生じるということになります。

1社独占になったら送料が高くなるとか、失業者が増えるといった問題点も挙げられますが、それらの点が別の方法でクリアされれば問題ないということをご理解いただけるでしょうか。

非効率な競争の例（２）



時間の都合でこの部分は省略します。



3. 解決方法のヒントは家事労働にあり

先ほど、このスライド（注：家事労働のスライドを映す）での質問の答えにもなりますが、家事労働では、家族が仕事を奪い合わず、協力して仕事をします。

仕事を奪い合う社会



社会でも、無駄な競争をせず、社会で必要な仕事を協力して済ませていくという仕組みになれば効率の良い社会になるように私は思います。

失業率が高いということは、裏を返せば社会で必要な労働力が充分に足りているということなので、失業率が高いことが問題となること自体が不思議なことだとも言えます。

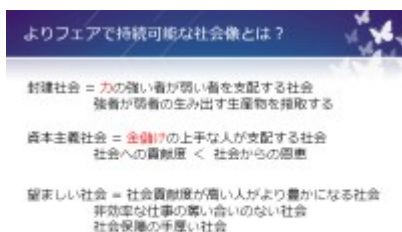
家事仕事でしたら、ロボット掃除機が主婦の仕事を奪っても何の問題にもなりませんから。

仕事を分担しあうコミュニティ



もしも社会のしくみが「奪い合うしくみ」から、「分担しあうしくみ」になれば、効率的で住みよい社会になるのではないのでしょうか？そこには、経済成長のノルマはありません。アリやハチなどの社会的動物の社会には経済成長がなくても、持続可能な社会を実現していますね。人間はアリやハチよりも優れていて、文明を発達させ、どんどん効率よく、便利に、豊かになりましたが、資本主義のしくみでは持続可能な社会は実現できないと思います。

フェアな社会とは



ここまでのところがおぼろげながらも理解していただけましたら、また話題を変えましょう。資本主義というか、市場経済はフェアなしくみでしょうか？

日本においても、ヨーロッパにおいても、封建制度の時代がありました。

ざっくりと言うと、力の強い者が弱い者を支配する社会で、強者が弱者の生み出す生産物を搾取していました。

資本主義社会は、これもざっくり言いますと、金儲けの上手な人が支配する社会といえます。必ずしも社会貢献度が高い人がお金持ちなのではなく、お金儲けが上手な人がお金持ちということです。

本来、お金というものは物々交換の不便な点を解消して、分業を促進し、人々を豊かにする、いわば単なる道具に過ぎません。

ある人が栽培した農作物を売って、それでお金を得ます。そして、その人はそのお金で生活に必要な別の何かを買うことができます。売った農作物と買った何かの価値がだいたい同じだと、お金がきちんと物々交換の仲介物として使われているということになります。しかし、実際はそうになっていないように思います。「濡れ手で粟」の人もいれば、「働けど働けど我が暮らし楽にならざり」の人もいます。なので、人はいかにお金を稼ごうかといつも心を砕きます。本来、お金は目的ではなく、結果であるべきものだと思います。

私が考える、よりフェアな社会というのは、社会貢献度と受け取る報酬がだいたい比例する社会です。すべての人が安心できる、社会保障が完備された社会です。現代社会は、職が完全に保障された職業もある一方、多くの若者が非正規雇用に従事しています。

「お金儲けが上手な人がより豊かになる社会」と「社会貢献度が高い人がより豊かになる社会」。皆さんはどちらの社会が望ましいと思いますか？

資本主義の暴風雨をしのげる場所づくりの話



少し前置きに時間をかけ過ぎるてしまいました。このあたりから本題に入ります。これまでの話はいったん脇においておきます。一応誤解のないように言っておきます。資本主義を批判する話をしましたが、私は革命家ではありませんし、社会を転覆させようというような気はさらさらありませんので、ご安心ください。

しかし、資本主義というしくみには問題がある。ならばどうするつもりかという、資本主義の嵐が吹き荒れる中、それが直撃している人たちに対して、雨宿りの場所を提供したいと考えているのです。ここからはその雨宿りの話をしていきます。



フランスの経済学者トマ・ピケティの言葉を待つまでもなく、格差はますます拡大しています。皆さんに聞いてみましょう。もし、社会が大金持ち村と一般庶民村に分断されたとします。

皆さんは**どちらに住みたい**ですか？ 「一般庶民村の方がいい」って方いますか？



私は、住むなら断然庶民村です。庶民村にはお金はあまりありません。しかし、農作物もあれば、魚も肉もある。職人さんもいれば、保育園もあります。逆に、大金持ち村では、誰が米や野菜を作るんでしょう？ 家の修繕は誰がするんでしょうか？

こう考えると、何だか立場が逆転するように思いませんか？ お金という紙や金属や数字は**何かと交換した時、はじめて役に立つ**ということです。庶民村に足りないのは、お金に代わる**何らかの交換手段**だけで、実際は何もかも揃っているということです。

第3章 ポイント通貨構想について

ポイント通貨構想



こうした問題を解決するアイデアとして、「**ポイント通貨構想**」を提案します。一般市民に不利な**日本円のフィールド**だけで戦うのではなく、新しい**ポイント通貨というフィールド**で助け合って暮らそうという提案です。ポイント通貨は**地域通貨**に似ていますが、**違う点**もあります。それは後で説明します。

互いの特技を交換



具体的な事例で見てみましょう。

イラストレーターのA子さんは仕事からパソコンが得意です。ある日、家の**雨どい**が壊れました。業者に修理を頼む経済的な余裕がないため、**ホームセンター**に行き、必要なものを調達して、苦勞しながらなんとか自分で修繕しました。慣れない上に、**道具**も十分なものがなく、**半日**かかりました。

互いの特技を交換

かたや、**Bさん**は**工務店**をたたくで**年金生活**。

町内会の役員になり、パソコンで**回覧板**や書類を作成することになった。パソコン教室に通う余裕もなく、**半日**かけてクタクタになりながら、やっと**回覧板**を仕上げた。



かたや、**Bさん**は**工務店**をたたくで**年金生活**をしています。ある日、町内会の役員になり、パソコンで**回覧板**や書類を作成することになりました。国民年金では、パソコン教室に通う余裕もなく、**半日**かけてクタクタになりながら、やっと回覧板を仕上げました。

ポイント通貨でお悩み解決！

Aさんはポイント通貨で、Bさんに雨どいの修理を依頼。あっという間にきれいに仕上がった。ポイント通貨のおかげで、社会との関わりも生まれ、生きがいにつながった。

後日、BさんがAさんにポイント通貨で、パソコンでの作業を依頼。1時間ほどで、分かりやすい閲覧板ができた。



この状況をポイント通貨という方法を使って解決してみます。

Aさんはポイント通貨で、Bさんに雨どいの修理を依頼しました。

あっという間にきれいに仕上がりました。後日、今度はBさんがポイント通貨で、Aさんにパソコンでの作業を依頼しました。1時間ほどで、閲覧板ができ、簡単な修正ならできるようになりました。



お互いのできることで助け合うことによって、温かい社会ができると思います。

ポイント通貨は、お金と同様に、多角的な取引が可能です。

非正規労働者、専業主婦、学生、高齢者といった現金収入が少ない人にとって、メリットの多いしくみです。互いのできることで、助け合う社会を作ることができます。



しかし、これだけだと既存の地域通貨と同じです。残念ながら、地域通貨で地域の諸問題が解消されたという喜ばしい知らせはあまり聞きません。

そこで、私は「地域通貨」を改善した「ポイント通貨構想」を紹介していきたいと思います。

ポイント通貨の4つの特徴

ポイント通貨は、普通のお金と違う4つの特徴を持っています。

① 個人に1つの電子マネー口座を与える

新しいコミュニティでは、日本円から換算したポイント通貨が使われる。



② 口座に上限額を設ける

口座に上限額を超え、それを越えた分は税として徴収される。



(1) 個人に1つの電子マネー口座を支給する

参加を希望する人には、電子マネー口座を発行します。紙の通貨は使いません。互いの貢献度を数値化するだけでいいので、紙幣ではなくても、情報で良いのです。個人に1つの電子マネー口座を支給して、携帯やパソコンでポイントの取引ができるようにしたいと考えています。

(2) 口座に上限額を設ける

口座に上限額を設け、それを越えた分は税として徴収されます。額の目安は、ポイントの高額所得者上位の1～2%が対象となる程度の高い額に設定するのが適切ではないかと予想しています。つまり、大部分の人は関係ないということになります。

- ③ 月をまたぐごとに残高が1%ずつ減る
 口座の残高が月に1%程度ずつ減る。
 (100ポイントは翌月になれば99ポイントになる。)
 その減価分は税として徴収される。



- ④ すべての個人に基礎所得を支給する
 全個人に無条件で、最低限の生活に必要な
 ベーシックインカム（基礎所得）を支給する。



- (3) 月をまたぐごとに残高が1%ずつ減価する

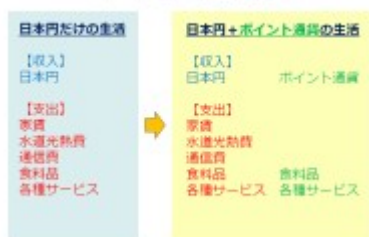
口座の残高が月に1%程度ずつ減るようにします。つまり、100万ポイントは翌月になれば99万ポイントになります。その減価分は税として徴収されます。

- (4) すべての会員に基礎所得を支給する

集まった税を財源にして、2つのことをします。1つは、コミュニティ**全体のため**に使います。これは国や地方自治体の税金の使い方に似てはいます。

残りは**ベーシックインカム**として還元します。生活保護は低所得の人だけですが、ベーシックインカムとは、「**すべての個人に無条件で、最低限の生活に必要な額を支給する構想**」です。

ポイント通貨は補助的手段



ポイント通貨は**補助的手段**で、既存のお金に取って代わるものではありません。家賃、水道光熱費、通信費など、**大部分は日本円**に頼らなければならないのは当然です。でも、食料品や各種サービスの一部をポイント通貨で支払ったり、受け取ったりすることによって、日本円の収入が少なくても**生活にゆとり**ができます。金銭での結びつきとは違った**温**

かい人と人との結びつきが生まれます。



「国民がお金をいつまでも貯めておかなくようにする仕組みが必要だ」ノーベル経済学賞を受賞したアメリカの経済学者**ポール・クルーグマン**の言葉です。

みんながお金を使わず**貯めておく**と、お金の**循環が悪くなって**、景気が悪くなることは広く知られています。ポイント通貨は毎月少しずつ減っていくので、貯めておくことはできません。仮に、減価率を

1.00%に設定した場合、**5年9ヶ月**で残高が半分にになります。

お金が減価するとお金が循環する！



資本主義のしくみでは**大量消費**、**無駄な公共事業の発注**、**観光客誘致**などによって、何とかしてお金を循環させようと工夫しています。このコミュニティで使われるポイント通貨にそうした行為は不要です。

お金には、商品やサービスとお金とを交換することができるという「**交換機能**」があります。また、食料品などと違い、容易にためておくことができるという「**貯蔵機能**」という性質があります。

そして、その両者は**トレードオフ（二律背反）**の関係です。交換している時は貯めていませんし、貯めている時は交換していないということです。ということは、貯蔵機能を弱めることは交換機能を高めることにつながり、**自然と景気が良い状態が続きます**。

第4章 バイオミメティクスという考え方

自然の叡智に学ぶ

マルクスは**共産主義**のアイデアを机上で考えたためか、実際にはなかなかうまくいかないという結果になってしまいました。

このアイデアも**机上の空論**であっては意味がありません。しかし、これは単なる机上の空論ではありません。

バイオミメティクスという考え方
(生体模倣)



近年、**バイオミメティクス**という考え方が注目されています。生体模倣と訳されます。**蚊の針**の形状を模倣して、痛くない注射針が発明されました。カタツムリの殻に汚れが付きにくく落ちやすいことを研究して、汚れにくい外壁材が開発されました。このように、**自然の叡智**から学ぶという考え方が**近年注目**されています。

血液の循環を経済システムに應用しよう！
(血液は細胞の隅々まで循環する！)



このポイント通貨のしくみもバイオミメティクスの考え方に基づいています。しばしば、**不景気な状態**が**血液の循環の悪い状態**に例えられます。ならば、**逆に**血液を上手に循環させる人体のしくみを、経済のしくみに取り入れると、もしかしたらうまくいくかもしれないというところから生まれたのがこのアイデアです。

今日は時間の関係で、詳しい説明は省きますが、ポイント通貨の**4つの性質**は**血液循環のしくみ**を模倣したものです。

血液はお金にあたります。**細胞は私たち個人であり家庭**です。細胞が集まって**臓器**となり、臓器が人体全体を活かし、人体は血液循環を通して、臓器を生かします。「**ひとはみんなのために、みんなはひとりのために**」という**助け合い**のしくみができあがっています。

経済を含む社会システムにも応用可能

このように、人体の循環システムを経済に適用し、さらに、脳の判断機能、神経伝達機能などを社会に適用する考えを生体社会論と呼ぶ。



それだけではありません。このアイデアは経済システムを含む**社会システムにも応用**できます。脳の判断機能は政治に応用できますし、神経伝達機能は情報の伝達に応用可能であると考えています。

ポイント通貨で解決が予想される諸問題



このしくみによって、お金の循環がよくなることは説明しました。

貯蓄額の上限が設定されているために、十分な貯えがある人は仕事をセーブします。また、最低限の生活がベーシックインカムによって保障されるということは、必ずしもフルタイムで働かなくても、働いた分だけ生活にゆとりが生まれるということになります。つまり、何が何でも

生活のために職にしがみつくな必要なくなるということです。それは無意味な仕事の奪い合いを減らす方向に作用し、仕事をシェアする方向に作用します。

面倒な税の申告の手間、徴収の手間が完全に省かれます。

もし仮に、国がこのしくみを採用したとしたら、税の申告が非常に楽になります。税理士に依頼する必要もありませんし、税務署も不要になります。

財政政策も議論の余地がありません。財政赤字になれば、減価率を0.1%刻みで調整することも簡単ですし、上限額を少し下げること容易です。

その他にも、良い点はたくさんあるのですが、時間の都合で割愛します。冒頭で列挙した資本主義の矛盾点はこのシステムで解消すると思います。

では、実際にどのように展開していくのか

では、このアイデアを元に、どのように地域再生をしていくかを考えてみましょう。

ここでは、仮に、岡山市で実践することを想定して、プランを立ててみます。

雨樋の修理と回覧板作成の例でも分かるように、このしくみは現金収入の少ない人に便利なしくみです。

税が差し引かれますが、大部分はベーシックインカムとして還元されます。つまり、貢献した分がほぼそのまま返ってくるということです。

税金で買ったものは会員の共同財産になります。たまにしか使わない物などはコミュニティが準備しておけば便利です。草刈機、耕うん機、冠婚葬祭の時に女性がつけるパールのネックレス、ベビーカーなど。一人ひとりが所有しておかなくてもよいものはたくさんあります。何も「所有権」がなくても、必要な時に使える「使用权」があれば事足りるということはい多いと思います。というか、むしろそっちの方向に進むべきだと思います。

「所有・独占」から「利用・共用」へ



たくさんのブランドバッグを所有している**セレブ**と呼ばれる人もいますが、一度にいくつも持ち歩くわけではないので、大部分は家に眠っているということになります。このコミュニティに若い女性が多く参加したら、コミュニティ内でグループを作って、そこでお金を出し合って**ブランドバッグ**を何種類か揃えておき、必要な時に、必要な人がそれを持って**デート**に行ったり、**コンサート**に行ったりと有効に使えます。場合によったら、コミュニティの税でそれを揃えてもいいでしょう。**コ**

ミュニティの運営は民主主義ですので、「今回は税金で**3Dプリンタ**を購入したから、次は**ブランドバッグ**を購入しましょう」というので、いいと思います。それこそが、**物も人も活躍できる社会**だと言えます。つまり、「**所有権**」がなくても、「**使用权**」さえあればそれで全く問題がないわけです。

地域通貨の不振の原因

使う場所が少ない

→ 行政との連携
(市民税、公共施設の利用料などで使用)

稼ぐ場所が少ない

→ 基礎所得としての還元分がある。
→ 行政が環境整備費などで仕事を依頼する。

地域通貨が振るわない原因として、**使う場所が少ない**ことと、**稼ぐ場所が少ない**ことが挙げられます。それを解消するためには、コミュニティに**一定量以上の参加者が必要**で、その人たちの**取り引きが活性化**する**必要**があります。このポイント通貨はベーシックインカムが支給されるので、**休眠会員**にはなりにくいとは思いますが。せっかくのポイントを使わないともったいないですからね。でも、それに甘んじず、使ったり

稼いだりする機会を増やす必要はあります。おそらく、数万人ぐらいまでは、人が増えれば増えるほど、**多様な商品やサービス**が揃い、それにつれて**利便性**が増すと予想されます。

活性化のアイデアの1つとして、**行政との協力**が考えられます。例えば、**納税の一部**をポイント通貨で支払えるとか、市の施設の**利用料**をポイントで支払えるといったようにすれば、**使う場所と機会**が増えます。岡山市の方は集まったポイントで、地域の環境整備などに利用できます。**会員が対象**になりますが、**溝掃除の報酬をポイントで支払う**のです。ポイント通貨の性質上、残高が少ない人ほどそこでポイントを稼ぐメリットが増えますし、岡山市もポイントを**有効利用**できます。

行政と協力しない**コミュニティの活性化方法**として、**コミュニティ内企業**を作るということです。ポイントの税で、小麦粉を仕入れ、パンを焼き、職人さん、店員さんにはポイントで給料を支払い、会員は**ポイントでもパンを購入**できるようにします。日本円でも買えるようにすると、コミュニティにとって、**外貨の獲得**ができるわけです。

まずは実証実験を目標に



まず、目指すべきは**実証実験**だと考えています。いきなり本番をしては失敗します。このアイデアを広く知ってもらい、**賛同者**を募り、**議論**をする段階から始めたいと思います。

急ぎ足となり、説明が十分でない部分もありましたが、ご清聴ありがとうございました。